



9/25^日グリーンホールに初登場!! 上野通明さんにインタビュー

「オリジナリティ」を求めて

～ジュネーブ国際コンクールへの挑戦～

昨年、最難関の国際コンクールの一つジュネーブ国際コンクールチェロ部門に挑戦し、見事日本人として初優勝した上野通明さんにお話を伺いました。

🎻 チェロをはじめてきっかけを教えてください。

チェロは5歳の時に始めました。母がピアノ科を出ていて、姉二人もそれぞれピアノとヴァイオリンを習っていたので、小さい頃から音楽に囲まれている環境だったのですが、4歳の時にヨーヨー・マが演奏しているバッハのビデオを観て、それ以来チェロに憧れてしまいました。すぐに両親にチェロを始めたいとお願いしたのですが、早々に気が変わるとわかっていてみたくて、なかなか始めさせてもらえず、5歳になったクリスマスのころに、楽器も見つかり、先生も見つかって、ようやく始めさせてもらえました。

🎻 桐朋学園ではいつまで勉強されていましたか？

高校から桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）に入学し、その後桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースでも学びました。桐朋学園で出会った仲間とは交友関係が今も続いていまして、色々な刺激を受けて、本当に良かったと思います。その後、19歳の時にピーター・ウィスベルウェイ先生に声をかけていただき、2015年の秋からドイツのデュッセルドルフに留学しました。

🎻 留学してどのような変化がありましたか？

留学の第一の目的は、ウィスベルウェイ先生に習うことでしたが、周りの環境を変えることも自分にとって良いと思っていました。デュッセルドルフは、ライン川のほとりにある街で、留学中の音楽大学もその近くにあります。ロベルト・シューマン音楽大学というのですが、この街でかつて過ごした作曲家たちに思いを馳せながら、同じ空気を吸って、同じ川を見ながら散歩しているのだと思うと、わくわくするような環境です。

🎻 ジュネーブ国際コンクールを受けようと思ったきっかけを教えてください。

色々な国際コンクールがありますが、ジュネーブ国際コンクールの募集要項には、「オリジナリティを要求する」と書かれています。課題曲も非常にユニークなところに惹かれました。

例えばセミファイナルでは、バロック時代のソナタが課題曲のひとつなのですが、バッハの「ヴィオラ・ダ・ガンバ¹・ソナタ」をチェンバロと演奏するという選択肢があります。コンクールのために初めて「ヴィオラ・ダ・ガンバ・ソナタ」を勉強したのですが、チェンバロとのアンサンブルはとても面白かったです。さらに、現代曲の演奏もありましたが、課題曲のリストには、魅力的な作品が沢山ありました。

🎻 今回のコンサートでもバッハのヴィオラ・ダ・ガンバのソナタを取り上げてくださっていますね？

コンクールでは第2番を弾きましたが、作品を勉強する中で、第3番も魅力的だと思い、今回取り上げています。この作品はト短調で書かれているのですが、バッハのト短調は、ファンタジックな雰囲気のある調性だと思っています。快活なテンポで生き生きとした作品ながら、ト短調の要素が加わって、不思議な雰囲気があります。緩徐楽章は素敵なアリアで、フィナーレは緊張感のある曲です。バロック時代の協奏曲の様式で書かれていて、チェロとピアノそれぞれのテーマが重なり合っているのが、対話のように聴こえる面白い作品です。

🎻 今後どのような演奏家になりたいですか？

これからもずっとチェロの魅力に惹かれながら、曲を深く勉強して常に進化し続け、人の心に残る何かを世界中の方々に届けられるようになりたいと思っています。

🎻 調布のお客さまへのメッセージをお願いします。

今回演奏する作品は素敵な曲ばかりです。ショパンの作品は、彼の病気が悪化していた晩年の頃に作曲された大作です。また、伊藤恵先生とは初めてリサイタルを一緒にさせていただくのですが、彼女のピアノは、お人柄そのままに温かくて包まれるような音色なので、今回共演できることが僕自身本当に楽しみです。ぜひ沢山の方に聴いていただけると嬉しいです。

※8月の財団報に掲載したものに一部誤りがあったので訂正しております



¹ バロック期にヨーロッパ全土に普及した弦楽器で両脚の間に挟んで演奏する楽器